

## ■北海学園大、帯広畜産大が勝利。春季オープン戦第4日

春季オープン戦第4日は7月6日、札幌市円山競技場で2試合を行った。北海学園大（昨秋の道学生選手権優勝）－釧路公立大（同2位）は、攻撃力に勝る北海学園大が47－18で快勝した。東京農業大（同5位）－帯広畜産大（同6位）は、帯広畜産大が35－12で逆転勝ちした。春季オープン戦最終日の7月13日（日）は、札幌市円山競技場で北海学園大－室蘭工業大（午後1時開始）を行う。試合に先立ち午前9時半から、体力測定やプレー体験などで高校生にアメフトの魅力に触れてもらう「クロスオーバーアスリート測定会」も行う。



北海学園大－釧路公立大は、北海学園大が開始直後の攻撃シリーズでRB末広大貴（2年）の36ヤードランで先制すると、第1Q3分にRB加藤真之助（4年）の5ヤードランで加点。同9分にもRB加藤の23ヤードランで21－0とリードを広げた。北海学園大は第2Qにも、RB加藤の37ヤードラン、WR八乙女凌太郎（4年）の90ヤードキックオフリターンTDなどで20点を追加。第4QにはRB加藤の4本目のTDとなる3ヤードランで駄目を押した。

釧路公立大は第2QにDL/K北舘来星（4年）の29ヤードFG、第3QにQB中西亮太（4年）からTE砂原悠二（3年）への15ヤードパス、第4QにもQB中西からTE砂原への25ヤードパスなどで追いつけたが、前半の失点が多すぎた。

北海学園大の高木幸樹HCは「（QB、RB、WRなど）ボールを持つ選手は仕上がってきた。DLは1年生も多く、秋に向けた課題。あと1試合、誰が出てもクオリティの変わらないチームにしたい」と手綱を引き締めた。7TDの猛攻を演出した主将のQB成田

滉佑（4年）は「最初は良かったが後半に失速した。来週の室蘭工業大戦は右肩上がりのチームを目指す」と決意していた。



釧路公立大の伊藤祐介HCは「1年生が活躍したのが収穫」として、QBサックを決めたDE林直希、好タックルのLB山田晃大、好走を見せたRB佐藤蓮など新戦力の名を挙げて健闘をたたえた。後半に意地のTDパス2本を決めた主将のQB中西は「北海学園大は唯一勝っていない相手。秋に向けてタックルなど一から見直したい」と巻き返しを誓っていた。



東京農業大―帯広畜産大は、帯広畜産大が第2Q10分にRB宗像海斗（2年）の4ヤードランで7―6と逆転。その後再逆転を許すも、第3QにQB桂田陽向（4年）の連続TDランで21―12。第4QにもQB桂田からWR後藤永（2年）への23ヤードパス、RB宗像海斗（2年）の2本目のTDランでリードを広げた。

東京農業大は第1Q6分、QB関叶翔（3年）からTE大嶽潤太郎（3年）への20ヤードパスで先制し、第2QにもQB関からWR木村拓海（4年）への30ヤードパスで12―7と再逆転したが、その後は帯広畜産大に攻撃を封じられた。



帯広畜産大の鏡順之助監督は「桂田が活躍し、OLのブロックの精度も上がった」と手ごたえを実感しながら「秋に向けて体力アップを」と選手たちに期待した。2TDラン、1TDパスと攻撃を牽引したQB桂田は「先発QBの故障で2週間前から準備してきた。TDはOLの頑張りのおかげ。秋はWRとして頑張りたい」と力を込めた。

東京農業大の藤沢清芳HCは「1年生を全員試合に出せたのが収穫。貴重な経験になった。秋に向けてOLのフィジカルアップとタックルの改善をしたい」と課題も挙げた。2TDパスのQB関は「TE大嶽はエース。何度も練習したパスだった。今年はレシーバーがそろっているので、優勝が目標」と言い切った。

（学連広報委員 塚田博）